③離一切苦一切病痛能解一切生死之縛の事

(「離れる」ではなく「明らむ」)

離一切苦　一切病痛
能解一切　生死之縛

＝ 法華経の抜苦与楽の功力を歎じたところ

(一切の苦、一切の秒痛を離れ、能く一切の生死の縛を解かしたもう)

このまま解釈してはならない！

「離」と「解」は法華経の心に背くもの

(これではまるで爾前と同じになってしまう)

法華経は煩悩即菩提・生死即涅槃を心としているから、「離れる」ではなくて「明らむ」と読むのが正解

一切の苦と病痛 → 煩悩即菩提とする
一切の生死の縛 → 生死即涅槃とする

×離れる
◎明らむ

「ファイン式御義口伝メモ」
http://777fine.web.fc2.com/

本門寿量の慧眼開けて見れば本来本有の病痛苦悩なりと明らめたり

　そもそも生死は生命にとって本有のものだから(16-04 参照)、離れようとすれば無理が生じるのはあたりまえ。

「本門寿量の慧眼」とは、御本尊を信じきること